

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとりまします。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 ニュース/国会
- 3面 読者のページ/まんが/乱楽パズル
- 4~5面 地方自治と平和/女性働く/ホットライン
- 6面 食事情/子育て相談/時事・防衛財源確保法案
- 7面 核兵器のない世界へ3・1ピクニック/母の歴史



名古屋市 大野シヅエ

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

社会を変える 給食の可能性

『給食の歴史』著者 藤原辰史さんに聞く

1989年の給食(おにぎり、塩鮭、菜の漬物)



現代の給食(野菜たっぷりで栄養バランスのとれた献立)



提供：独立行政法人日本スポーツ振興センター・全国学校給食甲子園

各地で学校給食の無償化と国産・地場産食材の使用を求める運動がすすんでいます。20世紀の食と農の歴史や思想を研究し、『給食の歴史』(岩波新書、2018年)で社会における給食の可能性を探る藤原辰史さんに聞きました。



ふじわらたつし 1976年生まれ。京都大学人文科学研究所准教授。人間・環境学博士。近著に『歴史の肩担い』(講談社、2022年)。

始まりは貧困対策

日本初の学校給食の制度は、1889年に山形県鶴岡市で佐藤霊山というお坊さんが学校に通えない子どもたちのために始めました。農村の子どもたちは農作業を手伝い、大人も子どもに弁当を持たせる時間もお金も

日本特有の変な制度、給食

給食って、とても変な制度です。学ぶための場である学校で、みんなが同じものを食べる、しかも教育効果もある。生活と学びの間にある非常に不思議なものです。海外の給食はただの食事の時間ですが、日本では掃除も配膳もして、牛乳パックもたたむ。

私は、歴史研究者として私たちが普段食べているもの、普段の暮らしから歴史を描きたかったんです。歴史教科書にはどうしても有名人が出てき

バラマキではない無償化へ

私は給食の無償化に賛成です。教育の一環であ

勉強は二の次でいい、とありあらず学校においてよという。給食は、家庭の子どもを経済状況にかかわらず学校に通わせるための装置、いわば貧困対策という感じでした。

そして給食にあるのは教育効果です。戦後の文部省の役人たちが、給食は社会科学や化学など学問のベースになると論じました。さらに、戦後、民主主義になって教師と子どもをつなぐ重要なかがいになった。これまでに先生は天皇陛下の威光を背負って生徒に教えていた怖い存在だった。その先生と子どもとの距離を縮めるものでもあったんです。

給食って、とても変な制度です。学ぶための場である学校で、みんなが同じものを食べる、しかも教育効果もある。生活と学びの間にある非常に不思議なものです。海外の給食はただの食事の時間ですが、日本では掃除も配膳もして、牛乳パックもたたむ。

3・8国際女性デー

(2面へ)



平和・ジェンダー平等を、とミモザの花を手に銀座をパレード(3月8日)

給食は万人に無償で与えられるべきです。しかし、この間、無償化が「バラマキ政策」として捉えられてしまっていて、なぜ無償化が必要なのか論じられていません。

給食には地域の農家や漁家の人々と給食、教育の現場をつなげ、地域を耕す機能があります。私はそこに化学肥料をできるだけ使わない有機農業を導入すれば、給食だけではなく農業自体も大きく変わると思っています。無償化でホッとしたい瞬間に、関心を失い、給食は地域が作っていくという感覚がなくなることに危機感を抱きます。そして質の低下の問題です。民間企業に安くて

低品質のものを委託しても、無償化だから文句を言わせないとかならない。しかし子どもたちにおいしい物を食べさせるのはなんぞせたいくではなく、子どもたちの心も育てていくものです。そこにお金を投じられるかどうかです。

給食は子どもが初めて地域の文化にガチンコで触れ合うもので、子どものファーストインパクトはとても大切です。巨大な資本に作られたものではなく、安いけど農業や化学肥料を使わない食べ物や子どもが育ち、ひいては日本の食文化を鍛えていく上でも重要だと思

2面へ

